

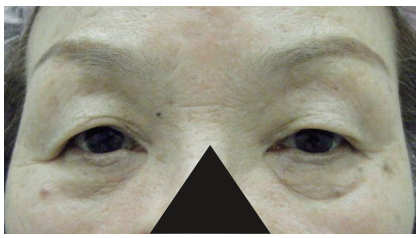
c 終了直前の状態



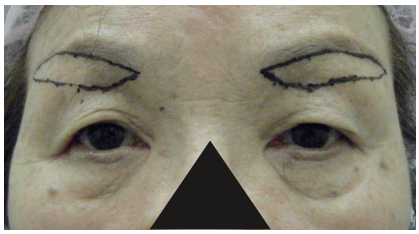
d 終了後の状態。
眼輪筋やその表面を走行する小血管などが温存され、出血量も少ない。

＊村上正洋：退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除術．PEPARS. 51 : 52−61, 2011. より引用

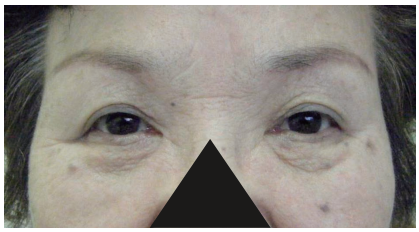
ついで、最小限の皮下剥離を行い、ellmanバイポーラを用いて丁寧に止血した後に眼輪筋・眼窩隔膜のタッキング、真皮縫合、表層縫合の順で3層に閉創する。



a : 術前の状態



b: デザイン（最大切除幅 10mm）



c : 術後 6ヶ月の状態

＊村上正洋：年々まぶたが重くなる．−アトラス−形成外科手術手技．百束比古編．180−184, 中外医学社, 2011．より引用

術後は2日間程度の創部のクーリングを行い、1週間後に抜糸する。

参考文献

1）村上正洋：年々まぶたが重くなる．
−アトラス−形成外科手術手技．　百束比古編．180−184，　中外医学社，2011.
2）村上正洋：眉毛下皮膚切除．新 Eye Surgery Now.　9：59−63，2012.
3）村上正洋：眼瞼の形成外科手術における局所麻酔のコツ．PEPARS. 72：1−8，2012.
4）村上正洋：退行性上眼瞼皮膚弛緩症に対する眉毛下皮膚切除術．PEPERS. 51：52−61，2011.
5）村上正洋：眉毛下皮膚切除術．眼手術学2　眼瞼．野田実香編．330 − 339，文光堂，2013.

【筆者略歴】

1989年　日本医科大学 卒業、同大学皮膚科学教室形成外科 入局
1991年　日本医科大学付属第二病院外科・麻酔科 助手
1993年　総合会津中央病院皮膚科 医長
1994年　日本医科大学付属病院形成外科 助手
1995年　オーストラリア、ロイヤルアデレイド病院・小児病院クラニオフェイシャルユニット 留学
1996年　日本医科大学付属病院高度救命救急センター 助手
1997年　大浜第一病院皮膚科形成外科 医長
2000年　日本医科大学付属病院形成外科･美容外科 医局長
2003年　日本医科大学形成外科学 講師
2005年　同、准教授、日本医科大学武蔵小杉病院形成外科 部長
2010年　日本医科大学武蔵小杉病院形成外科 教授